

これまで、小さな生き物や動物の生命と触れ合ったとき、どんな気持ちになったか。

- ・モルモットと触れ合ったとき、もっと一緒に過ごしたいなと思った。
- ・もし自分だったらどうか考えて関わりたい。
- ・話はできないけれど、友達と同じように関わる。

実態

- 素直で前向き。
- 全ての児童が「生命は大切」と回答。
- 教材理解の差がある。
- いい子でいようとする。

ねらい

★助かったヒキガエルの様子を見た時の気持ちを考えることを通して、小さな生き物の生命も自分たちの生命と同じように大切にしようとする心情を育てる。

3年

小さな生き物の生命も大切に

(D 生命の尊さ)

ヒキガエルとロバ



工夫

- ・自分事として教材と関わる。
- アンケートや教具の活用。
- ・余韻をもって授業を終える。
- 歌での終末。
- ・思考の流れが見える。
- 構造的な板書。

小さく息をしているヒキガエルを見て、アドルフたちはどんな気持ちだったか。

ヒキガエルに石をぶつけているとき、アドルフたちはどんな気持ちだったか。

やらなければよかった。

ごめんね。

カエルのいのちは無いと思っていたけれど、やっぱり大事だったな。

どこかに行ってほしい。

楽しいからもっとやろう。

協議会を通して学んだこと

- ・教具……ヒキガエルの写真や実物大のマスコットの提示により、場面を想起したり、考えをまとめたりしやすくなった。
- ・役割演技…言い出しの言葉を提示すると、発言しやすくなる。
- ・終末……教師の実体験による説話や、生命に関する歌を歌うことで、余韻をもち、温かい気持ちで終わることができた。「人も小さな生き物も同じ生命をもっている」という歌詞に注目するのよ。
- ・その他……友達との意見交換の時間により考えを深められた。
教師の問い返しや「付け足しはありますか」という発問等が効果的だった。